

【第6回 佐賀県災害警戒本部会議】 7月12日

危機管理・報道局副局長／安否確認不明の3名のうち2名が発見され、2名とも死亡が確認された。残る1名の搜索は、引き続き川、河口、海の沖合まで範囲を広げ進める。崩落した現場では、がれきや土砂内の搜索も継続して行う。

昨日から重機を使用し、作業が大幅に進んだ。本日は雨の予報のため、専門家が常駐し、土砂の状態を監視し、二次災害を警戒しながら作業にあたる。

早朝6時から、災害救助犬活動を皮切りに作業が進められている。

防災監／昨夜からの雨の状況と、本日は重機を使った作業ができるかどうか聞きたい。

危機管理・報道局副局長／雨の状況は、昨日と大きな変化は確認できない。重機の作業が進み、その後の手作業が中心に行われている。

また、土砂が流入した家屋は相当数あるが、倒壊は見えない。

危機管理防災課長／7時30分現在の報告をする。

- ・唐津市浜玉町の土砂崩れの現場では、2名死亡、1名行方不明。
- ・停電は、七山地区が50戸。
- ・市町の警戒態勢は、唐津市が災害対策本部を立てた。
- ・避難指示が、唐津市浜玉地区1か所、67世帯191名。
- ・避難者数は、5世帯10名。
- ・大雨警報はすべて解除と記載されているが、佐賀・多久地区、鳥栖地区、武雄地区に土砂災害の大雨警報が発令された。

今後、それぞれの市町で情報連絡室が立ち上がり、避難指示等発令される可能性もあるため、注視していく。

資料(8)のリエゾン派遣は、引き続き唐津市に5名派遣中。内訳は、諸岡副局長、寺田課長、松尾、小林、古賀。危機管理防災課の職員と職員OB3名の計5名体制で、唐津市の状況を確認している。

県土整備部／公共施設の災害件数は、順次増加している。施設別では河川107か所、砂防施設4か所、道路施設33か所、計144か所。

脊振山系の河川、道路等で被害が出ている。今後、山間部の調査で増加が予想される。また、市町の災害報告も上がってくる。

農林水産部／脊振山系の中山間地を中心に、農地や山林の崩壊が約 100 件確認された。今後も増える見通し。被災箇所は、公共施設や人家等への影響はない。

県警本部／昨日から引き続き、平原の倒壊現場を中心に検索・救助活動を行う。天候が回復次第、ヘリで上空から検索。また、9時から警備艇で海の検索も行う。

自衛隊／自衛隊第4師団は、6時5分から50分間、消防が手配した日本レスキューの2頭、航空自衛隊の災害救助犬2頭を運用し検索した。

7時50分から、警察、消防と連携し、ローテーションで作業を開始。指揮通信5名、実動部隊38名、計43名で人命救助活動を実施する。

唐津市より、廃土、土砂の運搬のニーズがあるため官民関係機関と調整中、と報告を受けた。

佐賀広域消防局／活動内容に変更はない。唐津市消防本部23名、唐津市消防団52名、県内応援消防32名、計107名で捜索にあたる。

重機による捜索活動は、悪天候のため土木の専門家のアドバイスを受けながら、二次災害の防止を徹底して行う。

教育委員会／県立学校と市町立学校すべて通常通り運営されている。

司会／气象台の情報では、昼前から昼過ぎにかけて雷を伴った激しい雨が降る見込み。多少の雨でも土砂災害が発生する恐れがある。1時間当たりの最大降水量は30mm。作業等には、十分安全を確保してほしい。

防災監／昼から、激しい雨が降る可能性がある。地盤が緩んだり崩壊が起こったりしているため、住民の皆様は危険な箇所や増水した川には近づかないよう注意してほしい。

天候が不安定なため、救出作業の際には二次災害等が起きないように、慎重に作業を進めてほしい。

令和5年7月北部九州豪雨災害では、道路や農林関係で多数の地域が被災している。そこで、昨日17時に復旧・復興推進チームを設置した。今後は、こちらで復旧・復興に関して対応していく。

警戒本部は、新たな災害が発生しないよう、救出活動を進めていく。大変な作業が予想される。天候や二次災害に注意しながら連携して作業を進めたい。